

株式会社 LIXILグループ

株 主 通 信

2019年3月期ご報告

2018年4月1日～2019年3月31日



目次

社長メッセージ	02	セグメント情報	14
2019年3月期実績と 2020年3月期業績予想ハイライト	08	株主メモ	15
LIXILの新商品	09	アンケート	16
LIXILのサステナビリティ	11	株式の状況	17
営業報告	13	会社概要	18
		株主優待のお知らせ	裏表紙

LINK TO GOOD LIVING



社長メッセージ

新たな One LIXILとして スタートします

取締役 代表執行役社長 兼 CEO

瀬戸欣哉



皆さまへのお礼

このたび、定時株主総会で取締役に選任され、代表執行役社長兼CEOに約8か月ぶりに就任しました、瀬戸欣哉です。昨年10月末に社長を退いて以降、ここに来るまでの間にさまざまなことがありましたが、まず始めに、応援して下さった株主さまをはじめとしたステークホルダーの皆さまに、

心より感謝申し上げます。新たな経営体制が発足したことは、ゴールではなく、新たなスタートラインであります。ここから改めて、LIXILグループを、より良い、必ず勝てる会社にしていきたいと考えております。

そして、この約8か月間の一連の混乱で、多くの方々にご迷惑とご心配をおかけしたことを、深くお詫び申し上げます。

定時株主総会での取締役の選任

このたびの混乱は、大株主ではない創業家の会社への影響力に一因があったと考えます。さらに、アクティビストではない機関投資家が、経営陣の交代プロセスに異論を唱え、当社にガバナンスの改善や説明責任を求めてきました。これらは、当社独自の問題のみならず、日本企業のガバナンスのあり方そのものに、大きな問題提起をすることとなりました。

その上で、6月の定時株主総会では、会社提案と、私を含めた株主提案の合計16名の取締役候補の選任が議案となりました。結果、実質会社提案のうち6名、株主提案8名の合計14名の取締役が株主総会で選任されました。この結果については、国内外のメディアが広く報道し、ESG(環境、社会、統治)投資への関心が高まる中、企業価値向上に向けたコーポレート・ガバナンス(企業統治)の重要性について、多くのステークホルダーが改めて考えるきっかけになったのではないかと考えています。

しかも、選任された14名のうち11

名は、賛成率がわずか50%台という、極めて異例の結果となりました。大半の取締役が、半分近くの株主さまから信任を得られていない、ということです。われわれ一同、これを肝に銘じて、ステークホルダーの皆さまの信頼を一刻も早く取り戻せるよう、チーム一丸となって全力を尽くしてまいります。

新たな経営体制

株主総会直後の取締役会において、まず取締役会議長、指名・監査・報酬の3委員会の委員、そして、代表執行役を含む執行役を決議しました。この取締役会は、会社提案側・株主提案側の取締役が初めて顔を合わせた機会でしたが、互いに敬意をもって、スムーズに進めることができました。双方とも、会社を良くしていきたいという思いで一致したからです。

取締役会議長には、コーポレート・ガバナンスに関する研鑽・啓蒙に取り組む一般社団法人日本取締役協会の幹事(副会長)を務める、コニカミノルタ株式会社の取締役会議長の

松崎正年氏に就任していただきました。また、指名・監査・報酬の3委員会については、会社提案と株主提案の双方から構成することとしました。さまざまな素晴らしい経験をお持ちの会社側候補だった社外取締役に、健全な批判勢力になっていただき、経営を監督していただく必要がある、ということが株主さまの意向だと考えたからです。

執行役の体制は大きくは変えていません。今までのチームが良いチームであり、その上で、執行役の陣営をレベルアップさせるため、グローバルビジネスに精通している人材と国内の重要な市場についての知見を持った人材を加えました。グローバル事業を統括するモハン、日本のLIXILハウジングテクノロジー事業の責任者の吉田、日本のLIXILウォーターテクノロジー事業の責任者の大西です。そして、以前から執行役副社長兼(株)LIXILの代表取締役社長である大坪は、会社提案の取締役ですが、重要市場である日本における知見が豊富であり、今まで一緒に働いてきた仲間でもあることから、私の右腕と

取締役



瀬戸 欣哉
取締役 代表執行役社長 兼 CEO
(兼) (株)LIXIL 代表取締役会長 兼 取締役会議長



川本 隆一
取締役 兼 監査委員会委員



松崎 正年
社外取締役 兼 取締役会議長 兼 指名委員会委員
(現職)コニカミノルタ(株)
取締役 取締役会議長



河原 春郎
社外取締役 兼 指名委員会委員 兼 報酬委員会委員
(旧職) (株)JVCケンウッド
代表取締役会長 兼 執行役員CEO



西浦 裕二
社外取締役 兼 指名委員会委員長 兼 報酬委員会委員
(旧職)三井住友トラスト
クラブ(株)代表取締役会長



大坪 一彦
取締役 代表執行役副社長
(兼) (株)LIXIL 代表取締役社長 兼 CEO 兼 LIXILジャパンカンパニー CEO



伊奈 啓一郎
取締役 兼 指名委員会委員



内堀 民雄
社外取締役 兼 監査委員会委員 税理士
(旧職)ミネベアミツミ(株)
取締役 専務執行役員



カート・キャンベル
社外取締役
(旧職)米国 国務省 東アジア・太平洋担当国務次官補



濱口 大輔
社外取締役 兼 報酬委員会委員長 兼 監査委員会委員
(旧職)企業年金連合会
運用執行理事 チーフ
インベストメントオフィサー



吉田 聡
取締役 兼 執行役専務
(兼) (株)LIXIL 取締役
専務役員



鬼丸 かおる
社外取締役 兼 指名委員会委員
(旧職)最高裁判所 判事



鈴木 輝夫
社外取締役 兼 監査委員会委員 公認会計士
(旧職)あずさ監査法人
副理事長



三浦 善司
社外取締役 兼 監査委員会委員長 兼 報酬委員会委員
(旧職) (株)リコー 代表取締役
社長 執行役員CEO

社長メッセージ

して、代表執行役副社長として活躍してもらったこととしました。

経営戦略について

2017年11月に発表した「中期経営計画 Toward Sustainable Growth 持続的成長に向けて」は、2018年4月から開始しましたが、残念ながらその7ヵ月後に、私は一旦、CEOを退任しました。この計画は、その当時の事業の責任者とつくり上げたものであり、その責任者たちは今も変わっていませんし、今、各事業が取り組んでいる戦略もほぼ同じです。ですから、私はこの取り組みの方向性を大きく変えるつもりはありません。ただし、「選択と集中」については、さらにスピードを上げていきたいと考えています。

LIXILは、いろいろな会社が統合してできたため、経営するのが非常に難しい会社です。しかし、組織やビジネスモデルをシンプルにしていけば、より経営しやすくなると考えています。

LIXILの企業価値を上げるために必要なことは、投資の優先順位を明確にすることです。ぜい肉を落として

バランスシートを整理し、基礎体力としてのキャッシュフローを増やしていく必要があります。コア(中核)に位置付けている領域に事業を絞っていく、成長性が低い分野への投資を減らしていきます。成長性が高い分野へは、今はキャッシュ創出能力が低くても投資を増やしていきます。

また、国内のハウジングテクノロジー事業は、コスト構造に課題があります。固定費が高すぎるために、市況の悪化・マーケットの縮小・原材料の値上がり等が起こった際には、一気に大きな減益となります。コスト構造を良くするには、設備投資をさらに少なくする努力が必要です。製造のプラットフォーム化を進めて、SKU(在庫管理の最小単位)を減らした上で、少ない生産ラインの数でフレキシブルな生産ができる体制をつくれれば、需要の変動に対して、対応がしやすくなります。日本では今後、人口が減って需要が下がっていきますが、その上で少量多品種が求められることとなります。それに合わせたコストでつくられるような構造をつくる必要があります。シェア拡大も利益率向上も重

要ですが、最も優先順位が高いのは、生産改革だと思っています。

株主さまとの対話

昨年10月末から6月の株主総会までの間、多くの機関投資家や株主さまから「説明が不十分。説明責任を果たしてほしい」という声を頂戴しました。今後は、これまで以上に丁寧に説明を行っていきます。特に、社外取締役からもっとオープンに説明する機会をつくりたいと思っています。社外取締役の方々には、私に対する批判も含めて、思ったことを投資家に話してください、と伝えています。

昨年10月末の経営陣の交代の経緯について、第三者の弁護士が作成した調査報告書を、2月に一部公表したところ、かえって投資家の反発を招き、4月に全文を公表しました。その内容を要約すると、「代表執行役の選解任は法的に有効ではあるが、手続きの客観性・透明性はベスト・プラクティスではなかった」というものでした。しかしながら、ガバナンスの問題は、単にベスト・プラクティスを採用する

だけでは解決しません。会社に特有の問題があり、それが何だったのかを改めて検証する必要があると考えています。この意味で、私は4月に公表した報告書は不十分だと考えています。そのため、改めてガバナンスを検証する特別委員会をつくり、交代の経緯を検証し、あるべきガバナンスの形をつくっていきます。

従業員との対話

定時株主総会の翌日、朝8時半と夕方4時から、東京の2つの拠点で、従業員との対話集会を開きました。その様子は社内のSNSで生中継され、従業員はその録画を見ることができるようになりました。従業員と久しぶりに会い、歓迎を受けて、素直にうれしく、感動しました。

その中で「会社は誰のためのものだと思いますか?」という質問がありました。これは難しい質問で、所有しているのは株主さまです。しかしながら、株主さまが所有する価値をつくっているのは、従業員です。お客さまへお渡しする価値をつくるのも従業員、

そして経営者として直接生かすことができるのも従業員です。従業員と経営陣がこの会社を良くしようと努力することで、会社の価値を上げることができます。また、最近の流れとして、投資家が会社に投資をすることは、単純にもうけるためだけでなく、その投資を通じて、社会を良くする目的もあります。この会社の従業員は約7万人で、その家族は数十万人もいます。その人たちが幸せになることができれば、社会に貢献している、といえます。

それは投資家にも評価されるはずで、従業員が、生き生きと楽しく働ける、会社にいることが楽しく、誇りを持つ、そういった会社をつくるのが経営者の使命だと考えています。

私は、従業員の行動様式こそが将来の競争力となると考えており、昨年に「LIXIL Behaviors」という3つの行動様式を定めました。特に1つ目の「正しいことをする」は、単に法律や倫理を順守するだけでなく、当事者意識を持つことを指します。



従業員との対話集会



INAXブランドのグローバル展開の拡大に向け「ミラノデザインウィーク2019 SuperDesign Show」に出展(2019年4月)
 (左)S600 LINE (右) INAXブースエントランス (右下)出展に際し、日本の水風景をイメージした特別仕様のセラファイン(CERAFINE)

過去の事例や既存のやり方にとらわれず、自分の頭で考え、誠実に正しく判断し、信念を持って行動するので。この8ヵ月間、私を支え、LIXILのCEOとして復帰する原動力となったのは、まさにこの「正しいことをする」という行動様式でした。従業員一人一人がこれを体現することで、今後LIXILをより強い会社にしていくことができると信じています。

株主の皆さまへ

この8ヵ月の間、会社として打ち手が遅れたり、優秀な人材が辞めたり、社内で一部対立があったことは事実です。また、国内市場は、今後の需要減がみえており、この先はやさしい道ではありません。大変な道ではありますが、経営陣・従業員で一丸となって進んでまいります。新

生LIXILグループへ、温かいご支援のほど、引き続き宜しくお願い申し上げます。

実績および業績予想のペルマスティリーザ社とそれ以外の内訳

(単位:億円)

	2018年3月期 実績 ^{※1}	2019年3月期				2020年3月期	
		業績予想 ^{※2}	実績	前期比	予想比	業績予想	前期比
売上収益	18,293	18,450	18,326	0%	△1%	18,500	1%
ペルマスティリーザ社以外	16,648	16,795	16,894	1%	1%	17,030	1%
ペルマスティリーザ社	1,645	1,655	1,432	△13%	△13%	1,470	3%
事業利益	760	450	128	△83%	△72%	470	267%
ペルマスティリーザ社以外	753	540	543	△28%	1%	590	9%
ペルマスティリーザ社	7	△90	△415	—	—	△120	—
親会社の所有者に帰属する当期利益	546	15	△522	—	—	150	—
ペルマスティリーザ社以外	664	250	253	△62%	1%	369	46%
ペルマスティリーザ社	△118	△235	△775	—	—	△219	—

※1 2017年8月のペルマスティリーザ社売却決定に伴い、同社の事業を非継続事業に分類していました。しかし2018年10月以降、同社を現状のまま売却が可能な状況ではなくなったことから、同社の事業を継続事業としました。これにより2018年3月期の売上収益・事業利益は、以前に発表した数字からペルマスティリーザ社の事業を含めた数字に変更しています。

※2 2018年10月公表

ペルマスティリーザ社(以下、ペルマ)を中国企業に売却することを2017年8月に決定したものの、2018年10月に米国の対米外国投資委員会より、この売却を承認しないとの通知を受領したため、同社を現状のまま売却することができなくなりました。ペルマは北米事業を中心に業績が悪化したため、同社が手掛けている全プロジェクトを検証し、第4四半期に、今後の物件完成までに要する工事コストの損失引当や貸倒引当金の計上等を実施した結果、大幅な減益となりました。

ペルマ以外の事業については、2018年10月に発表した業績予想並みとなりました。国内事業では、上期は自然災害による落ち込みの影響や新取引制度の導入に関わるコスト増がありましたが、下期には国内需要の回復、販管費抑制などが奏功しました。

2020年3月期の業績予想では、ペルマの赤字縮小と、主に海外のウォーターテクノロジー事業の利益率改善から、増収増益を計画しています。

01

LIXILの
新商品

お客様に快適な暮らしを提供する さまざまな商品が誕生しています

「空」とつながる「離れ空間」を贅沢に演出。

贅と美を極めた“GARDEN ANNEX”

LIXILは、ベルギーのRENSON社と業務提携し、“ガーデンライフを極める”をコンセプトとした「GARDEN ANNEX」を、エクシオールブランドから発売を予定しています。

「GARDEN ANNEX」は、屋根の開閉により「空」とのつながりを感じられるルーバーや、横からの視線をコントロールする電動スクリーン、ナイトシーンを優雅に演出するLED照明など洗練された機能・デザインで、贅と美を極めたガーデンライフを実現します。また、日本の気候にも適応したLIXIL独自の仕様としてガラスパネルもご用意しています。

RENSON社について



ベルギーで110年の歴史を持ち、世界80カ国以上で通風換気・日射遮蔽・アウトドアリビング商品を提供しています。“Creating healthy spaces”をテーマに、健康で快適な暮らしや職場環境を創りだすことを活動の基盤としています。グローバルの強力な流通ネットワークは、ベルギーを中心としたヨーロッパをはじめ、アメリカ、中東、アジア、そしてオーストラリアにまで及んでいます。

売上高：2.12億ユーロ(276億円/2018年)

社員数：1,020人(2018年)

いつでも快適で使いやすいトイレを提供。

業界初、INAX災害配慮トイレ 「レジリエンストイレ」

LIXILは、平常時も災害時も、いつもと同じ場所・同じ使い方で、子どもから高齢者まで誰でも使えるINAX災害配慮トイレ「レジリエンストイレ」を4月に発売しました。最大の特長は、災害での断水時でも、いつものトイレをそのまま快適に使用できる点です。一般的なトイレと異なり、「強制開閉弁」を採用することで、平常時は5L、災害時は1Lの水で洗浄可能*な状態に切り替えられます。今後、災害避難所となる学校などに提案を進めていきます。

*レジリエンストイレのご採用にあたっては、断水時に汚物を下水道まで搬送するため、「手動給水方式」または「汚水循環方式」のいずれかの配管設計をお勧めしています。

災害時でも水洗トイレとして使用が可能

洗浄ハンドルと開閉弁がロッドで連動し、洗浄ハンドルを回すことで作動する「強制開閉弁」を採用。平常時は5L、洗浄水量1Lでも汚物をスムーズに排出します。切り替えはタンクのフタを外し、内部の止めリングを外すだけの簡単操作です。トイレ洗浄用に学校などの避難所のプールから水を持ち運ぶのも簡単になり、被災者の負担を減らすことにも繋がります。

「最優秀レジリエンス賞」を受賞

レジリエンストイレは「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2019」(主催:一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会)において、最優秀レジリエンス賞(企業・産業部門)を受賞しました。この賞は、次世代に向けたレジリエンス社会構築のため、強くてしなやかな国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動、技術開発、製品開発等に贈られます。



*洗浄ハンドルの操作時間が約1秒の場合。操作方法により実際の使用水量は変化します。

「グローバルな衛生課題の解決」 「水の保全と環境保護」に取り組んでいます

「世界の衛生環境を改善しよう！ みんなにトイレをプロジェクト」を新たにスタートしました

LIXILは、「世界の衛生環境を改善しよう！みんなにトイレをプロジェクト」を2019年6月～11月まで実施します。

2017年以降、一体型シャワートイレ1台ご購入につき簡易式トイレシステム「SATO」1台寄付する取り組みを2回実施し、約40万台の「SATO」を寄付することとなりました。この活動をさらにスケールアップするため、2018年にユニセフとグローバル・パートナーシップ「Make a Splash! みんなにトイレを」を締結。

今回の取り組みでは、一体型シャワートイレの売上の一部をユニセフに寄付し、「Make a Splash! みんなにトイレを」パートナーシップを通じて、開発途上国での安全で衛生的なトイレの設置や、トイレの必要性の啓発、正しく使うための衛生教育などに使われます。



実施期間は2019年6月～11月です



活動報告

THINK HEAT

考えよう ヒトと地球にやさしい温度

地球環境を守るために、大切な家族の健康を守るために、改めて注目してほしいのが室内温度です。適切に温度をコントロールすることで、住まいの快適さと省エネを両立させ、みんなにやさしい暮らしを実現します。さらに住まいのCO₂排出量削減に貢献します。2018年からLIXILが取り組んでいるTHINK HEATの活動の一部をご報告します。



THINK HEAT 考えよう
ヒトと地球に
やさしい温度

地域社会へ 自治体との協働プロジェクト 熊本県西原村 × LIXIL

室内熱中症予防の啓発活動を通じ、熊本地震の復興支援として、災害公営住宅をより快適に過ごしていただけるよう、外付日よけ「スタイルシェード」を贈呈しました。これにより、日差し対策をしながら心地よい風を採り入れることができます。



入居者の方にも
ご満足いただいています

直射日光を遮るので暑さ
がだいぶ違う！すだれに比べて
見た目がいいので、まわりの
人からよく褒められます。
(入居者の方のコメント)



災害公営住宅に「スタイルシェード」を贈呈

子供たちへ 小学校への出前授業

未来を担う子どもたちが「ヒトと地球にやさしい温度」について考えるきっかけとして、LIXIL社員が講師をつとめる「出前授業」を実施。昨年度は19校・約1,430名の子どもたちに授業をしました。子どもたちに教えることで社員自身も学び、触発されています。



オリジナル教材を使った実験風景

営業報告

主な経営指数の推移〈連結、国際会計基準〉

	当期 自2018年4月 1日 至2019年3月31日	前期 自2017年4月 1日 至2018年3月31日	前期比 比率(%) / 差額
売上収益(億円)	18,326	18,293	0.2
事業利益*(億円)	128	760	△83.2
営業利益(億円)	△150	591	
親会社の所有者に帰属する当期利益(億円)	△522	546	
資本合計(億円)	5,672	6,496	△12.7
資産合計(億円)	20,595	21,071	△2.3
営業活動によるキャッシュ・フロー(億円)	694	1,164	
投資活動によるキャッシュ・フロー(億円)	△723	△526	
財務活動によるキャッシュ・フロー(億円)	16	△438	
現金及び現金同等物の期末残高(億円)	1,414	1,388	1.9
親会社所有者帰属持分比率(%)	25.9	29.3	△3.4
親会社所有者帰属持分当期利益率[ROE](%)	△9.1	9.4	△18.4
基本的1株当たり当期利益[EPS](円)	△179.98	189.13	△369.10
1株当たり親会社所有者帰属持分[BPS](円)	1,839.59	2,128.77	△289.18
1株当たり年間配当金(円)	70	65	5

*日本会計基準における「営業利益」と同等、事業利益=売上収益-売上原価-販売費及び一般管理費



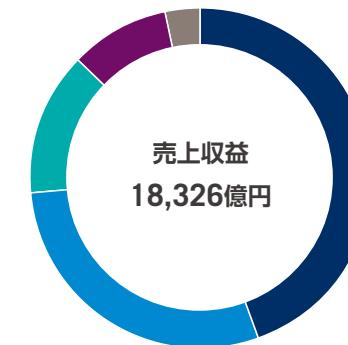
当社は2017年8月にペルマスティリーザ社の売却を決定したため、同社の事業等を非継続事業に分類していました。しかし、当期にペルマスティリーザ社が現状のまま売却が可能状況ではなくなったことから、同社の事業を継続事業として表示しています。前期実績も同様に表示を組み替えています。

セグメント情報

セグメント別の営業状況

	当期 (億円)	前期 (億円)	前期比 (%)
売上収益	18,326	18,293	0.2
ウォーターテクノロジー事業	8,331	8,279	0.6
ハウジングテクノロジー事業	5,408	5,352	1.0
ビルディングテクノロジー事業	2,560	2,715	△5.7
流通・小売り事業	1,764	1,735	1.6
住宅・サービス事業等	579	523	10.6
(調整額)	△316	△311	—
事業利益	128	760	△83.2
ウォーターテクノロジー事業	602	738	△18.4
ハウジングテクノロジー事業	207	275	△24.7
ビルディングテクノロジー事業	△381	46	—
流通・小売り事業	78	69	11.7
住宅・サービス事業等	35	25	36.1
(調整額)	△412	△393	—

売上収益内訳(当期)



ウォーターテクノロジー事業	44.7%
ハウジングテクノロジー事業	29.0%
ビルディングテクノロジー事業	13.7%
流通・小売り事業	9.5%
住宅・サービス事業等	3.1%

セグメント別の詳細は6月上旬にお送りした「第77回定時株主総会招集ご通知添付書類 第77期 報告書」の「事業報告」をご参照ください。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
株主確定日	定時株主総会議決権行使株主・期末配当金受領株主 3月31日、中間配当金受領株主 9月30日 上記のほか必要ある場合は予め公告して基準日を設定。
公告の方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL https://www.lixil.com/jp/investor/electronic_public/
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
1単元の株式の数	100株
上場取引所	東京証券取引所・名古屋証券取引所

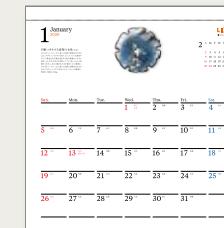
お知らせ

1. 株主さまの住所変更、買取請求、買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行、電話0120-232-711(通話料無料))にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
4. 配当金の口座振込をご指定の株主さまと同様に、「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられる株主さま宛にも「配当金計算書」を送付いたしております。「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねております。配当金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。なお、配当金を証券口座でお受け取り(株式数比例配分方式)の株主さまは、お取引のある証券会社でご確認ください。

アンケートにご協力ください

株主通信を手にとっていただきありがとうございます。株主の皆さまのご意見を今後の活動の参考とさせていただきます。同封のハガキに必要事項と、下記およびハガキに記載の設問に対する回答をご記入の上、2019年8月16日(金)までにご投函ください(当日消印有効)。ご回答くださった方には、LIXILの2020年版カレンダー(卓上建築カレンダーまたはタイルカレンダー、どちらかひとつ)を進呈いたします。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

アンケートご回答の方に
カレンダーをプレゼント!



※カレンダーの写真は
2020年版です。



左：タイルカレンダー(壁掛けタイプ、紙製) 39.5×39.5(cm)
右：卓上建築カレンダー(両面タイプ、紙製) 15×18.3(cm)

Q1 当社株式を取得されたきっかけをお聞かせください。(2つまで)

1. 会社四季報
2. 新聞・投資情報誌等
3. 証券会社の推奨・分析ツール
4. 個人投資家説明会
5. 当社CM・広告
6. 当社ホームページ
7. 当社ホームページを除くインターネット情報
8. 株主優待制度・株主優待情報誌
9. 知人・友人・家族の紹介
10. 当社製品を利用
11. 当社のファン
12. 当社従業員(元従業員)
13. 当社お取引先(元お取引先)さま
14. 相続・贈与
15. その他 [内容を回答欄にご記入ください]

Q2 当社株式の今後の保有方針についてお聞かせください。(1つ)

1. 1年未満
2. 短期(1年～3年未満)
3. 中期(3年～5年未満)
4. 長期(5年以上)
5. 売却しない
6. 売却済み(一部売却を含む)

Q3 今回の株主通信の全体の印象(サイズ、ページ数など)についてお聞かせください。

1. 良い
2. どちらかといえば良い
3. どちらかといえば悪い
4. 悪い

Q4 当社へのご意見・ご感想などがございましたらご自由にご記入ください。

→ 応募方法

同封の「株主さまアンケート回答用ハガキ」の両面に回答をご記入の上、「個人情報保護シール」を所定の位置に貼付してご投函ください。カレンダーの発送は12月中旬を予定しております。

必要事項をご記入の上、8月16日(金)までにご投函ください(当日消印有効)。

※集計の都合上、個別のお返事はできかねますので、ご了承ください。個別のご対応が必要な事項については、裏表紙「お問い合わせ先」までご連絡ください。

株式の状況(2019年3月31日現在)

株式数および株主数

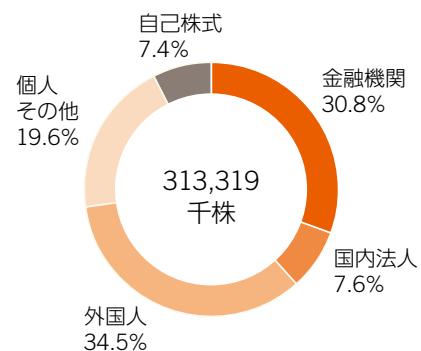
発行可能株式総数	1,300,000,000 株
発行済株式の総数(自己株式23,223,744株を除く)	290,095,415 株
株主の総数	60,532 名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	16,704*	5.76%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	13,541*	4.67%
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OM04 (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	10,970	3.78%
野村信託銀行(株)(信託口)	8,896*	3.07%
LIXIL従業員持株会	7,102	2.45%
第一生命保険(株) (常任代理人 資産管理サービス信託銀行(株))	6,561	2.26%
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1 (常任代理人 (株)三菱UFJ銀行)	5,743	1.98%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	5,725*	1.97%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C NON TREATY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	5,589	1.93%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	4,769*	1.64%

(注) 1. 上記の他に当社は自己株式23,223千株を所有しています。持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
2. ※はすべて信託業務に係るものです。
3. 野村信託銀行(株)信託口8,896千株は潮田洋一郎氏が委託した信託財産であり、信託契約上、議決権の行使については同氏が指図権を留保しています。

所有者別分布状況



金融機関	96,629千株
国内法人	23,866千株
外国人	108,101千株
個人その他	61,497千株
自己株式	23,223千株
合計	313,319千株

会社概要

会社概要

(2019年3月31日現在)

社名	株式会社 LIXILグループ
英文社名	LIXIL Group Corporation
設立年月日	1949(昭和24)年9月19日
本店	〒136-8535 東京都江東区大島二丁目1番1号
本社事業所	〒100-6036 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング36階
資本金	68,418百万円
決算期	3月31日
従業員数	56名(連結従業員数 62,940名)
主な事業内容	国内外の住生活関連事業・都市環境関連事業を営む会社の株式または持分を取得、所有することによる当該会社の事業活動の支配、管理を行っております。

執行役

(2019年7月3日現在)

代表執行役社長兼CEO	瀬戸 欣哉
代表執行役副社長	大坪 一彦
代表執行役副社長	松本 佐千夫
執行役専務	ファ・ジン・ソン・モンテサーノ
執行役専務	二瓶 亮
執行役専務	金澤 祐悟
執行役専務	ビジョイ・モハン
執行役専務	吉田 聡
執行役専務	大西 博之

委員会構成

(2019年6月25日現在)

<指名委員会>	委員長	西浦 裕二
	委員	鬼丸 かおる
	委員	伊奈 啓一郎
	委員	河原 春郎
<監査委員会>	委員長	三浦 善司
	委員	鈴木 輝夫
	委員	濱口 大輔
	委員	内堀 民雄
<報酬委員会>	委員長	濱口 大輔
	委員	西浦 裕二
	委員	河原 春郎
	委員	三浦 善司

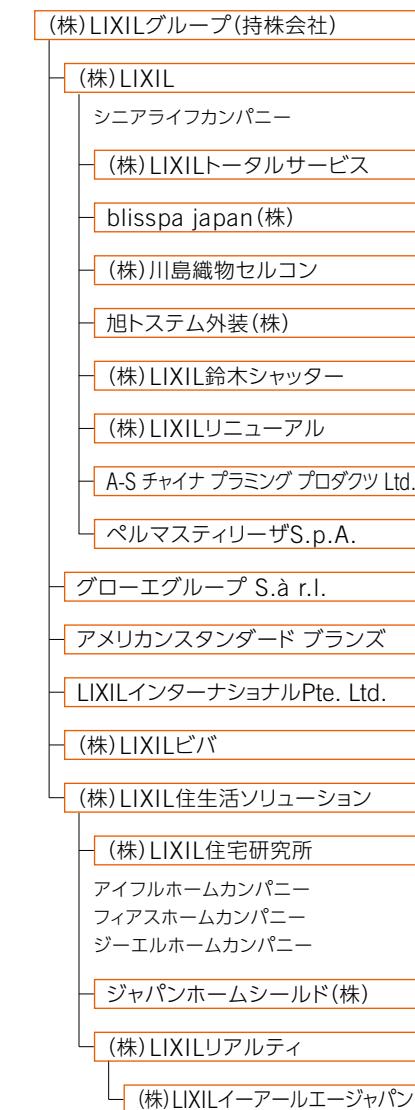
取締役

(2019年6月25日現在)

取締役	瀬戸 欣哉
取締役	大坪 一彦
取締役	吉田 聡
取締役	川本 隆一
取締役	伊奈 啓一郎
社外取締役	松崎 正年
社外取締役	内堀 民雄
社外取締役	鬼丸 かおる
社外取締役	河原 春郎
社外取締役	カート・キャンベル
社外取締役	鈴木 輝夫
社外取締役	西浦 裕二
社外取締役	濱口 大輔
社外取締役	三浦 善司

主なグループ会社

(2019年3月31日現在)



免責事項

この株主通信には、(株)LIXILグループの将来についての計画と予測の記述が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要素を含んだものであり、実際の業績はさまざまな重要な要素により当社の計画・予測と大きく異なる結果となる可能性があります。

株主優待のお知らせ

1 リフォーム株主優待

株主優待対象商品を使って工事が完了し、10月末までに請求書が発行されたリフォーム工事が対象です。10月31日(当日消印有効)までに必要書類とともに「リフォーム株主優待申込書」を投函してください。約2ヵ月後に商品券(JCBギフトカード)をお送りします。

2 生活サービス株主優待

ハウスクリーニング・衣類クリーニング・布団クリーニングのいずれかのサービスパックを割引価格でご購入いただけます。10月31日までに申し込みください。

2018年9月30日時点の当社の株主名簿に記載または記録されている100株(1単元)以上を保有されている株主さまへ、2018年11月末に「株主優待制度ご利用ガイド2018-19」と「リフォーム株主優待申込書」をお送りしました。皆さまのご利用をお待ちしています。

※「リフォーム株主優待申込書」「株主優待ご利用ガイド」の再発行はいたしておりません。ご了承ください。

詳細は昨年11月末にお送りした「株主優待制度ご利用ガイド2018-19」をご覧ください。
(今回は同封していません)



リフォーム株主優待申込書 (A3サイズ 裏面は封筒面となっています。)



お問い合わせ先

株式についてのお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行：証券代行部 0120-232-711 (P15「株主メモ」ご参照)

LIXILグループ：03-3638-9300

本誌の内容についてのお問い合わせ

LIXILグループ：IR室 03-6268-8806

株式会社LIXILの商品に関するお問い合わせ

お客さま相談センターのフリーダイヤルで承ります。商品により電話番号が異なりますのでご注意ください。
受付時間 平日 9:00~18:00、土日祝日 9:00~17:00(ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

■ トイレ、化粧台、浴室商品、タイル商品 ☎0120-179-400

■ キッチン商品 ☎0120-190-521

■ サッシ、ドア、エクステリア ☎0120-126-001

株式会社 LIXILグループ

本店：東京都江東区大島二丁目1番1号

本社事業所：東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング36階

ホームページ：<https://www.lixil.com/jp/>